

特集

産婦人科医リクルートへの効果的なアプローチを考える

企画者のことば

企画 長谷川瑛洋^{*1} 岡本愛光^{*1} 渡利英道^{*2}

産婦人科は、周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性ヘルスケアと4つの分野にわたって、女性の一生にかかわることができる魅力的な診療科として認識されている。一方で、医療訴訟になりやすい、長時間の労働で休みが取れないなどといったマイナスイメージをもたれることもあり、産婦人科医を専攻することの障壁と感じている医学生・臨床研修医も少なくない。しかしながら、産科医療保障制度や診療ガイドラインの普及や学会をあげての妊娠・出産に関連する働き方改革、子宮頸がんワクチン、出生前診断への社会的関心の高まりなどにより、新産婦人科専攻医数はここ数年増加傾向をたどっている。

一方で、産婦人科医の地域偏在や中堅医師の離職などにより各施設において必ずしも安定的

に産婦人科医数を確保できているとはいいがたく、今後継続的に新規の産婦人科専攻医数を確保していくことが求められている。また、2020年から続く新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、ハンズオンセミナーや勧誘会などの対面式のリクルート活動を行うことが困難となり、ウィズコロナ時代に合わせた新たなリクルートの形を模索していく必要もある。

そこで本企画では、産婦人科医リクルートの現状と問題点について、またそれらに対する様々なアプローチの方法について、日本産科婦人科学会未来委員会の中で産婦人科医リクルートを主に担当してきた先生方に執筆していただいた。これらのデータに基づいた情報や具体的なノウハウが、各施設での産婦人科専攻医数の増加に寄与する企画となれば幸いである。

^{*1}Akihiro Hasegawa, Aikou Okamoto 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座

^{*2}Hidemichi Watari 北海道大学大学院医学研究院産婦人科学教室